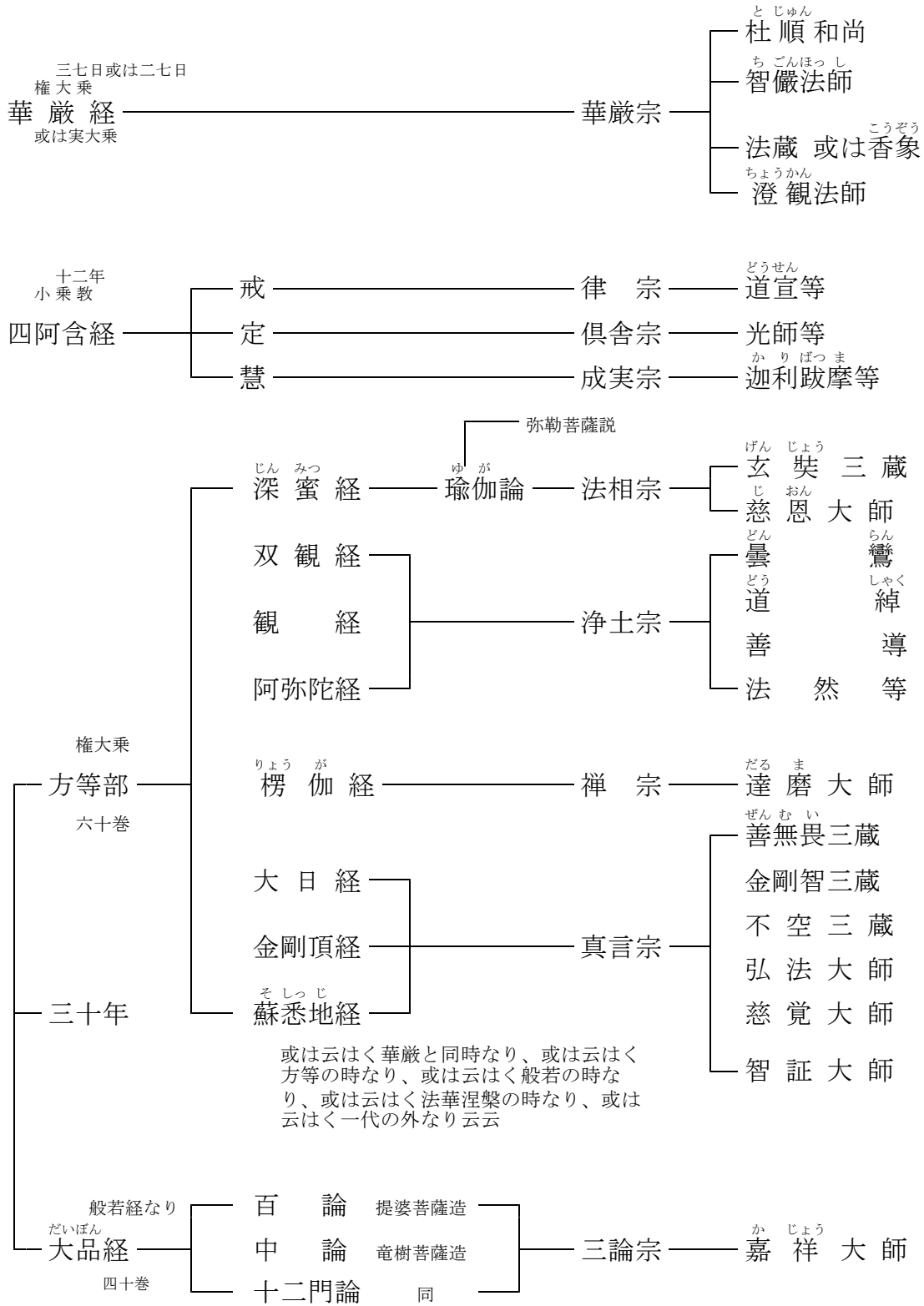


一代五時鶏凶

弘安二年

五八歳

十九出家三十成道



無量義經に云はく「方便力を以て四十余年未だ真實を顕はさず」

又云はく「無量無辺不可思議阿僧祇劫を過ぐるとも、終に無上菩提を成ずることを得ず。

ゆえん いかん じきどう けんぎょう る なん  
所以は何。菩提の大直道を知らざる故に、險徑を行くに留難多きが故なり」

又云はく「大直道を行けば留難無きが故に」

八箇年  
実大乘

法華經——天台法華宗

仏立宗

「將に魔の仏と作りて我が心を悩乱するに非ずや」

「仏の所説の法に於て当に大信力を生ずべし。世尊は法久くして後、要<sup>かなら</sup>ず<sup>まさ</sup>に真実を説きたまふべし」

「正直に方便を捨て、但無上道を説く」

「種々の道を示すと雖も其れ実には仏乗の為なり」

「今此の三界は皆是我が有なり。其の中の衆生は悉く是吾が子なり。而も今此の処は諸<sup>げんなん</sup>の患難多し。唯我一人のみ能く救護<sup>くご</sup>を為す」

「若し人信ぜずして此の経を毀謗せば、即ち一切世間の仏種を断ぜん。或は復<sup>また</sup>輦<sup>ひん</sup>蹙<sup>じゆく</sup>して疑惑を懐かん」

「経を修行し書持すること有らん者を見て、輕<sup>きよう</sup>賤<sup>せん</sup>憎嫉<sup>ぞうしつ</sup>して結恨<sup>けつこん</sup>を懐かん。其の人命<sup>みようじゆう</sup>終して阿鼻獄に入らん」

「葉王今汝に告ぐ。我が所説の諸経、而も此の経の中に於て法華最も第一なり」

「爾<sup>そ</sup>の時に仏復<sup>また</sup>葉王菩薩摩訶薩<sup>まかさつ</sup>に告げたまはく、我が所説の經典無量千万億にして、已<sup>すで</sup>に説き今説き當に説かん。而も其の中に於て此の法華経は最も為れ難信難解なり」

「爾の時に宝塔の中より大音声出だして歎めて言はく、善きかな善きかな釈迦牟尼世尊、能く平等大慧、教<sup>きよう</sup>菩薩法<sup>ぼさつぽう</sup>、仏所護念の妙法華経を以て、大衆の為に説きたまふ。是くの如し是くの如し、釈迦牟尼世尊、所説の如きは皆是真実なり」

「爾の時に世尊、文殊師利等の○一切衆の前に於て大神力を現じたまふ。広長舌を出だして上梵世に至らしめ」

又云はく「十方世界。衆<sup>もろもろ</sup>の宝樹の下の師子座上の諸仏も、亦復<sup>またまた</sup>是くの如く、広長舌を出だし無量の光を放ちたまふ」

一日一夜  
だいほつねはん  
大般涅槃經

- 依法不依人
- 依義不依語
- 依智不依識
- 依了義經 不依不了義經